

平成 30 年度 第 3 回 豊川水系流域委員会 議事要旨

日時：平成 30 年 11 月 6 日（火） 9：30～11：00

場所：豊橋市民センター（カリオンビル）6 階 多目的ホール

1. 開会
2. 挨拶
3. 話題提供

(1)平成 30 年 9 月末豪雨の出水概要

- ・伊勢湾台風規模という表現に留まらず、今回の台風の気象予報・予測の情報は、詳しく説明する必要がある。
- ・伊勢湾では台風の進行に合わせ潮位は上昇するが、三河湾は東西方向に向いており、台風が通過してからも河川水位に影響を与えるのが特徴であり、知見を積み上げていくことが重要である。
- ・もし停電した場合の対応を教えてください。
→事務所や観測所等には発電機等の設備があり、防災業務は継続することが可能である。
- ・豊橋市で各地区への伝達にミスがあったと報道されたが、情報伝達等の仕組みはどうなっているのか。
→施設管理者が操作するというルールがあり、その操作に課題があった。次の出水期に向けた対応を市と検討していきたい。

4. 議題

(1)豊川水系河川整備計画の取り組み状況

- ・今回の出水の前後で樹木や草本の変化をモニタリングしているのか。
→出水後には洪水痕跡調査を実施しており、樹木による水位上昇の影響は今後分析していく。
- ・出水で流失しないと想定していたヨシ原が流出していないかを確認していただきたい。また、下流のヨシ原の再生は流下能力に影響がないとの判断だが、堆砂が進んでいないかを確認して頂きたい。

- ・危機管理型水位計始め、水位がリアルタイムにインターネットで見られる仕組みは防災情報として非常に有益である。
 - ・維持管理費が事業費のうち3分の1を占めるということで、かなりの額になることが分かった。
 - ・施設の老朽化が懸念される中で、点検方法や判断基準、今後の見通し等を教えていただきたい。
- 時間計画管理として更新してきたが巡視や点検のデータの蓄積により、時間計画管理から状態監視管理に移行してきた。点検・記録・評価によって施設の長寿命化計画を策定し、設備の修繕タイミングの平準化を行っている。
- ・従来の想定を超える洪水が起きており、限られた予算と被害低減効果の両方について、引き続き検討していくことが重要。
 - ・ICTについて紹介しているが、事務所だけか、民間まで浸透しているのか。
- R i M a D I Sは、内部だけの運用であるが、取り組みは広がると考えている。

(2)豊川総合水系環境整備事業の再評価

豊川総合水系環境整備事業の再評価の対応方針（原案）について、「平成30年度第3回豊川水系流域委員会」において審議をいただき、了承されました。

留意点として、以下が挙げられた。

- ・土砂や生態系の動きは、上流域から河口部までの流域全体で捉えた検討が必要である。
- ・順応的に自然再生事業を進めるにあたり、モニタリングをしっかりと行う必要がある。
- ・社会・地域構造の変化によるニーズの変化や、川の歴史的な価値など、多様な視点についても把握し、情報提供できるよう努められたい。

(3)その他

特になし。

以上